

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471001162
法人名	有限会社 舞シャンブル
事業所名	グループホーム 舞シャンブル
訪問調査日	平成20年7月7日
評価確定日	平成20年8月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1471001162
法人名	有限会社 舞シャンブル
事業所名	グループホーム 舞シャンブル
所在地	244-0813 横浜市戸塚区舞岡町1273 (電話)045-822-6116

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	平成20年8月31日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	7 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 10.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	50,400 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(355,200 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	427 円
	夕食	367 円	おやつ	202 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	健康あんしんクリニック、十慈堂病院、いずみ皮膚科、秋元眼科、フールさくら歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは横浜市営地下鉄舞岡駅から徒歩10分位のところにある。自然に恵まれ、駅からも近く、ご家族も訪問しやすいところである。ホームの地域とのお付き合いの工夫としてホームの入口にゴミの集積場を提供し、ゴミの日にコミュニケーションを取るなどしている。医療連携体制の認可をとり、看護師による健康管理と往診医との24時間管理体制が確立し、ご家族として医療、介護両面での安心な体制となっている。ホームとして取り組んでいる事項としては①居室担当者を決め、利用者さんと担当者が1対1で外出する体制が出来るようになったこと、②職員の写真を名前入りで掲載することによりご家族が職員に対し親しみが湧くと好評なこと、③理念の具体化として「今月のテーマ」を決めて張り出しお互いに気付きが出来るようにし、無理の無い教育対応として生かしているなどである。ホームの「売り」は「ケアを感じさせないケア」であり、職員に対してはお年寄り(ご利用者)に対しては常に笑顔で対応するように指導し、笑顔の対応に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間は特に地域密着を課題として取り組んで来た。運営推進会議の開催により、メンバーに対するアンケート等による要望から町内会館で”認知症ミニ講座”をグループホーム主催で開催を企画し、地域の方々にお声をかけたところ30名余の参加があった。これを皮切りとして地域の方々が高齢者に関する相談が何でもして頂ける体制、グループホームが地域に還元できる事を考え、町内会とも協調して進めつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価についてはホームの状態を第三者に客観的に見られることで、思わぬ気付きがあり、改善につながっている。前回の調査実施時の話し合いや評価での指摘事項などにつきカンファレンスで話し合い、改善または改善の方法を検討している。自己評価の実施やカンファレンスで話し合いにより職員への周知は充分出来ている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は既に2回実施済みである。メンバーは地域住民代表として舞岡第3町内会から役員で高寿会(老人会)のメンバーが2名、オブザーバーとして地域包括支援センターのケアマネジャーが参加する他、ご家族については全員がメンバーと云うスタンスで全員に案内し都合のつく方にはご参加頂くようにして、毎回、5~6名の参加がある。この運営推進会議に参加したご家族同士には連帯感も生まれ提案なども頂ける体制へと育ってきているのは嬉しいことである。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>上記、運営推進会議のようにお家族は協力的であり、訪問頻度には多少のバラツキはあるものの、必要に応じて電話や毎月の連絡等で十分にコミュニケーションは取れている。個人の連絡についても携帯NO.を聞いてあり、緊急の連絡は取れる体制が出来ている。ターミナルケアについては訪問Drを交えた打合せ、訪問Drからの現状報告、今後の見通しなどの話が聞ける体制が整っており、気軽に訪問Drに質問も出来る体制にある。総合的にも医療については本人、ご家族、職員、主治医が方針・情報を共有し対応する体制が出来ている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>①近所の保育所とは開設以来のお付き合いが続いており、相互のイベントへの参加、散歩途中の立寄りなどフレンドリーな良い関係が維持されている。②ご近所からボランティアの方が来てくれて、歌、オカリナ、大正琴など楽しませてくれている。③同じくボランティアで理美容の方が月1回、無料で来て調整してくれている。④NPO法人の有料ボランティアとしては通院介助、個人のお散歩介助などで活用している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中に舞シャンプルが溶け込めていけるような舞シャンプル独自の理念を作り上げている。玄関に掲示しており、来訪者にもわかりやすくなっている。	○	今後も地域との密着に努めて行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、念頭に入れ、利用者の方その人らしく毎日心掛けて努めている。また、玄関に掲げてあり、常に確認できる状態にある。カンファレンスの時などに、毎回確認し合い理解を深めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のイベントや近所の保育所との交流、近所の方のボランティアを受け入れ、地域との交流に努めている。		今後も積極的な参加を継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に見られることで、改善に繋がっている。また、前回の助言や注意していただいたことについて、カンファレンスで話し合い、改善または、改善の方法を検討している。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から頂いた意見に基づき、すぐに対応することはすぐに対応している。ご家族については全員がメンバーと云うスタンスで全員に案内し都合のつく方にはご参加頂くようにしている。この運営推進会議に参加したご家族同士には連帯感も生まれ提案なども頂ける体制へと育ってきているのは嬉しいことである。		たくさんの意見を言うていただけるような良い関係性を築いていき、サービスの向上に生かしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの共催での認知症ミニ講座の開催等を通じ、サービスの向上につなげている。また、戸塚区のグループホーム連絡会への出席を必ずしている。		今後も継続していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行っている。また、面会時には必ず近況の報告をしている。また、緊急時は電話連絡を蜜に取っている。必要があれば、日常記録をコピーしお渡しできる準備がある。ターミナルケアについては訪問Drを交えた打合せ、訪問Drからの現状報告、今後の見通しなどの話が聞ける体制が整っており、気軽に訪問Drに質問も出来る体制にある。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情対策の機関の案内を掲示しており、いつでも連絡していただけるようになっている。また、意見や苦情を入れるポストの設置をしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限の移動しかしていない。最近では、離職も減り、顔見知りによるケアができています。	○	今後も配慮を欠かさないようにしていく。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、講演会の案内を掲示板に張り出しており、必要時は参加している。また、他施設との交換研修を実施している。積極的な参加を促し、育成につなげている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の実施等を通じ、他の施設との交流をもっている。	○	今後は、もっと機会が増えれば良いと思っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居の利用をしていただいたり、何回か遊びに来ていただきながら、なじめるようなら入居に繋がるようにしている。	○	お試し入居等は今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方との同じ空間で生活し、同じテレビを見たり、一緒に買い物に行ったり、利用者のプライバシーを守りながら楽しく生活できるよう努力をしている。出来る部分は、積極的にお願いし、支えていただいている感謝を伝えている。		職員も助けてもらいながらさらに良い環境を作って生きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを日々の何気ない会話等から把握するようにしている。その方のペースに合わせて、話す、聞くを心掛けている。居室に伺い、意見を聞いたりもしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスでの話し合い等を反映させて作成している。介護計画は職員全員の意見を反映させている。また、ご家族利用者の方との話し合いを持っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的な変化があったときなど、新しいプランを立てている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	立地条件が良いので、散歩等したり、環境の良いところを生かし、柔軟な支援を心掛けている。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回の総合的な訪問診療や、歯科、泌尿器科、皮膚科の往診があり、適切な医療が受けられるようになっている。		今後も継続していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	何度も話し合いの場を設け、なるべく長く住み慣れた環境で生活していけるような支援をしている。また、方針は職員、ご家族、主治医と共有しており、同じ気持ちで接することができている。今年度は、看護師も働いているので、職員やご家族の中の安心材料にもなっている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに注意することは、全職員が同じ気持ちで接している。言葉使いにも十分に気をつけている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活を優先したケアを心掛けている、随時、希望を聞く機会を持ち、生活のペースを大切にしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく、食事時間を過ごしていただけるよう、食べやすい工夫や好みの食事等に配慮している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく、利用者の方の望むとおりの入浴の時間が取れるよう努力をしている。入浴時間が楽しむ時間となれるような配慮をしている。		今後も、職員間での話し合いをし、良い入浴環境を作っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることは、積極的にお願いし生活の中での役割を持ち、張り合いや喜びのある生活の支援をしている。出来ることを探していきながら、楽しい生活が送れるような支援をしていきたい。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境が良いので、散歩や近所への買い物など出掛ける機会を作っている。玄関先には花を植えたり、プランターでの野菜や花の栽培をしており、ホームの中だけでの生活だけではないようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は1日中、開放しており自由に外の空気を吸える環境にある。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を今年度は、ご家族や近隣の方にも参加していただけるような準備をしている。	○	運営推進会議で、地域の方、ご家族の方には話しているので、実施ができるような準備をしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方に合った、食事の量や水分の量、職員間の連絡もしっかりと行い、バランスよくできている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のある作りになっている。不快な光が入るような時には、カーテンやブラインドを下げるなどの配慮をしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方や、ご家族との相談で、使いやすく、生活しやすいような居室環境にしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 舞シャンブル
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	横浜市戸塚区舞岡町1273番地
記入者名 (管理者)	布施 晶子
記入日	平成 20 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中に舞シャンブルが溶け込めていけるような舞シャンブル独自の理念を作り上げている。玄関に掲示しており、来訪者にもわかりやすくなっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、念頭に入れ、利用者の方その人らしく毎日心掛けて努めている。また、玄関に掲げてあり、常に確認できる状態にある。		カンファレンスの時などに、毎回確認し合い理解を深めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入居時にお渡ししている。また、地域の人々にも知っていただくために玄関に掲示しており、いつでも見られる状態にある。		入居希望の内覧時等に配布して、舞シャンブルのことを良くしていただき、理解していただきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時の挨拶や、近所の野菜直売所に買い物に行っていたり、ゴミの集積所を近隣の方と共有し、日常的なつきあいを心掛けている。		町内会の活動に参加していただき、舞シャンブルの理解を深めていただき、少しずつ交流が深まり、気軽に立ち寄っていただけるような環境をつくりあげたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のイベントや近所の保育所との交流、近所の方のボランティアを受け入れ、地域との交流に努めている。		今後も積極的な参加を継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は、訪問診療にきていただいている医師に講師となっただき、認知症ミニ講座を開催し、近隣の方やご家族の方に参加をしていただいた。		好評だったので、今後も継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に見られることで、改善に繋がっている。また、前回の助言や注意していただいたことについて、カンファレンスで話し合い、改善または、改善の方法を検討している。		今後も継続していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から頂いた意見に基づき、すぐに対応している。		たくさんの意見を言っていただけるような良い関係性を築いていき、サービスの向上に生かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの共催での認知症ミニ講座の開催等を通じ、サービスの向上につなげている。また、戸塚区のグループホーム連絡会への出席を必ずしている。		今後も継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の案内をたびたびみるが、業務が優先になってしまっているため、参加の機会を逃してしまうこともある。また、職員自身で勉強している。		参加の機会があれば、積極的に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が常に気にかけている。		利用者の方を良く見ていることや、些細なことでも職員同士で注意し合える環境づくりを継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際や、退去時には確認、説明を行い十分な理解をしていただいている。		今後も継続していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方や、ご家族からの意見は必ず上司に報告し、その場で解決したり、カンファレンスで話し合っている。日々の何気ないコミュニケーションの中から意見、不満、苦情を汲み取りようとしている。		今後も継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行っている。また、面会時には必ず近況の報告をしている。また、緊急時は電話連絡を蜜に取っている。必要があれば、日常記録をコピーしお渡しできる準備がある。		今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情対策の機関の案内を掲示してあり、いつでも連絡していただけるようになっている。また、意見や苦情を入れるポストの設置をしている。		今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で行っている。		今後も継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員確保はできている。イベント時や急病者出たときなど柔軟な対応ができている。		今後も継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限の移動しかしていない。最近では、離職も減り、顔見知りによるケアができている。		今後も配慮を欠かさないようにしていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、講演会の案内を掲示板に張り出しており、必要時は参加している。また、他施設との交換研修を実施している。		積極的な参加をしていき、育成につなげていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の実施等を通じ、他の施設との交流をもっている。		今後は、もっと機会が増えれば良いと思っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の信頼関係を築き、ストレスをためないよう話し合いを持っている。親睦を深めるために食事会を開いたりしている。		休憩の取り方をもっと工夫し、今よりも働きやすい環境を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割分担をし、チームで仕事をこなし責任を持っていくことを意識している。		向上心を持つよう言葉では言われているが、研修を受けさせるような働きかけが少なく感じるので、積極的な動きをしたい。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会話を多く持ち不安なことや、求めていることを受け止める努力をしている。共に生活することで上手く意見が言えない方の訴えも理解するよう努力をしている。		良い信頼関係の中で生活できるよう、今後も良い環境を作っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の内覧時から、困っていることや求めることを聞くようにしている。また、入居の初期の時には、細やかな連絡をとるようにしている。		良い信頼関係の中で生活できるよう、今後も良い環境を作っていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリの必要や、介護用品のリースや必要としている支援を心掛けている。往診医師との相談も行っている。		今後も継続していきたい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居の利用をしていただいたり、何回か遊びに来ていただきながら、なじめるようなら入居に繋がるようにしている。		お試し入居等は今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方との同じ空間で生活し、同じテレビを見たり、一緒に買い物に行ったり、利用者のプライバシーを守りながら楽しく生活できるよう努力をしている。出来る部分は、積極的にお願ひし、支えていただいている感謝を伝えている。		職員も助けてもらいながらさらに良い環境を作って生きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	在宅時の生活の様子を聞いたり、行事の参加をしていただきながら、共に感動や喜びを味わえるよう努力をしている。		近隣等への散歩などにも同席していただき、スキンシップを図ってもらえるような環境づくりをしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、ゆっくりと居室で過ごせるような雰囲気を作り、良い環境を作っていたり。また、利用者の方とご家族との意見の橋渡しをしている。		良い環境を維持していけるような対応をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚の方等の面会も制限はなく、自由に過ごしていただいている。		今後も継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係には特に気遣っている。利用者同士の関係は把握しているが、全員が関わり合い、支え合っていくことは難しい部分もある。職員は、共有できる会話の工夫をしたりしている。		人間関係の把握を常に出来るよう配慮していくことを継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。		今後も、そのような関係を望むご家族には、相談を含め大切に付き合っていく

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを日々の何気ない会話等から把握するようにしている。その方のペースに合わせ、話す、聞くを心掛けている。居室に伺い、意見を聞いたりもしている。		今後も意向の把握が出来るよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から、昔の話を聞き把握していく努力をしている。個人記録の確認を何度も行いながら、利用者の方の生き方や、して欲しいことをインプットしていつている。		たくさんのコミュニケーションを今後もとっていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの表情や会話でいつもと変わったところは無いか把握している。職員間での申送りを「蜜」に行っている。		今後も継続していきたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスでの話し合い等を反映させて作成している。介護計画は職員全員の意見を反映させている。また、ご家族利用者の方との話し合いを持っている。		今後も同様な介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的な変化があったときなど、新しいプランを立てている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分生かしていると思う。又、職員全員が情報の共有をし、介護計画につなげ、ケアに生かしている。		より良い記録を目指し、書式等の変更の検討もおこなっていく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	立地条件が良いので、散歩等したり、環境の良いところを生き、柔軟な支援を心掛けている。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多部門においての協力を得ている。ボランティアさんの受け入れや、徘徊ネットワークの活用、避難訓練の実施等がある。		今後も継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリの利用や、有償ボランティアとの契約等、生活しやすい環境を作っている		今後も継続していきたい。色々な事業所の把握をし、良いサービス提供が出来る環境づくりをしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、良い関係性が保たれている。		今後も継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回の総合的な訪問診療や、歯科、泌尿器科、皮膚科の往診があり、適切な医療が受けられるようになっている。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員やご家族が話しやすい医師との関係性が成り立っている。また、専門の病院に行った方が良い等の適切な指示もいただけている。		今後も継続していきたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	舞ジャンブルの職員として、週に1回は必ず出勤しており、必要に応じて、夜間や緊急時などの対応もできている。		今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のケースワーカーや主治医、ホームにいた時の主治医と相談しながら、早く、慣れた環境に戻れるよう情報交換をこまめに行っている。		各病院のケースワーカーさんとも顔見知りになることが多く、話しやすい環境や相談ができているので、今後も継続していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	何度も話し合いの場を設け、なるべく長く住み慣れた環境で生活していけるような支援をしている。また、方針は職員、ご家族、主治医と共有しており、同じ気持ちで接することができる。		今年度は、看護師も働いているので、職員やご家族の中の安心材料にもなっているため、今後もその都度対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何度も話し合いの場を設け、なるべく長く住み慣れた環境で生活していけるような支援をしている。そのような環境になってしまった時には、クリニック側、ご家族側、ホーム側での出来ること等の確認を文書に残し、支援に取り組んでいる。		その都度の柔軟な対応を今後も継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	使い慣れているものを持参していただいたり、ご家族の面会を多くしていただくなど、混乱を少なくする努力をし、ご家族が持っている情報なども教えていただいている。		混乱を最小限にするため、ご家族や利用していた事業所との連絡をこまめに行っていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに注意することは、全職員が同じ気持ちで接している。言葉使いにも十分に気をつけている。		今後も十分配慮したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	どんなことでも、十分な説明を行い納得していただけるよう心掛けている。		今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活を優先したケアを心掛けている、随時、希望を聞く機会を持ち、生活のペースを大切にしている。		今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なかなか、望む店に連れて行けることは少ないが、なるべく希望に添えるようにしている。髪型は、利用者の方の希望通りにしている。起床時や外出時等の身だしなみには十分配慮している。		今後も継続していきたい。外の理美容店の利用も積極的に利用していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく、食事時間を過ごしていただけるよう、食べやすいような工夫や好みの食事等に配慮している。		今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活環境と変わらないような嗜好品の摂取に努めるようにしている。		欲しいものを自分の目で見て選んでもらえるよう買い物の時間をもう少し増やして生きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のタイミングを掴み、自尊心を傷つけないような支援をしている。オムツやパットなど利用者の方に合ったものを探し使用している。		肌に良いオムツやパット、利用者の方が使いやすいものを探しながらの支援を継続していきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく、利用者の方の望むとおりの入浴の時間が取れるよう努力をしている。入浴時間が楽しむ時間となれるような配慮をしている。		今後も、職員間での話し合いをし、良い入浴環境を作っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝をしたり、安楽な生活を送っていただけるような支援をしている。		今後も、利用者の方の生活習慣を確認しながら安眠、休息の時間を作れるようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることは、積極的にお願ひし生活の中での役割を持ち、張り合いや喜びのある生活の支援をしている。		出来ることを探していきながら、楽しい生活が送れるような支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際のお金の支払は、出来る方にはお願いしている。また、ご家族の協力を得て自室にお金を所持している方もいる。		今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境が良いので、散歩や近所への買い物など出掛ける機会を作っている。玄関先には花を植えたり、プランターでの野菜や花の栽培をしており、ホームの中だけで生活だけではないようにしている。		行きたいところへ行けるようなサービスができていけると良いと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームだけでは、対応しきれない事もあるので、ご家族の協力を得て、自宅への一時帰宅ができた方もいる。		今後も、ご家族の協力も得て実施していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自由に行ってもらっている。電話は、ご家族が携帯電話を準備してくれている方もいる。		電話、手紙等の通信が断たれることがないように、配慮していきたい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限は一切していません、自由に訪問していただき、一緒に外出したり、居室やリビングの開放をして居心地良く過ごせるよう配慮しています。		今後も継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、身体拘束を行っていません、生命に危険がある時のみ十分な説明や、同意を得て行うようなマニュアルがあります。		今後も継続した考えで接していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は1日中、開放しており自由に外の空気を吸える環境にある。		今後も継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、利用者の方がどこにいるのか、何をしているのか把握しており、安全を一番に考えています。		今後も継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の方に応じた対応をとっています。危険があるはさみや包丁、針なども職員と一緒に使うなどしています。		今後も継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には十分注意しています。また、ヒヤリハットを活用し事故防止につなげている。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており、職員が分かるようになっている。		今後も継続していきたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を今年度は、ご家族や近隣の方にも参加していただけるような準備をしている。		運営推進会議で、地域の方、ご家族の方には話をしているので、実施ができるような準備をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	色々なリスクを考え、抑圧感の無い生活が送れるよう考えている。		研修との参加で、リスクマネジメントについて理解を深めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の様子を記録に残し、少しの体調の変化にも気付き、速やかな対応をしている。看護師との連絡や主治医との連絡はすぐ取れる体制になっている。		今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方の使用している薬の案内は、全職員が目を通し、理解に努めている。担当の薬剤師にもすぐに話しが聞ける状況にある。		今後も継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らない、自然排便があるよう、ヤクルトの飲用や体操、散歩等の配慮をしている。		今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず職員が口腔ケアには立会い、必要に応じて支援している。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方に合った、食事の量や水分の量、職員間の連絡もしっかりと行い、バランスよくできている。		今後も継続していきたい。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	十分に配慮している。		今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には、十分な配慮をしている。		今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の入り口には野菜を植えたり、玄関先には花を栽培したり、殺風景にならないような工夫をしている。		今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のある作りになっている。不快な光が入るような時には、カーテンやブラインドを下げるなどの配慮をしている。		今後も継続していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースを作ったり、仲の良い方と一緒に座れるソファの準備があったりと、工夫をしている。		良い環境づくりを今後も継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方や、ご家族との相談で、使いやすく、生活しやすいような居室環境にしている。		良い環境づくりを今後も継続していきたい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気扇の利用や、窓を開けるなど換気に注意しており、また気温の差が無いような配慮は常にしている。</p>		<p>良い環境づくりを今後も継続していきたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>要所要所に手すりをつけたり、バリアフリーな建物となっており、残存機能を生かした生活が出来るよう配慮している。</p>		<p>良い環境になると思われることは積極的に行ってきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>失敗しても大丈夫と安心感を持ってもらうような環境づくりと、混乱が少なくなるような支援をしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでの食事やお茶飲み、植物の栽培や、洗濯物を干すなどの在宅と同じような環境を作っている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族との連絡を密接にとり、相互の状況の報告をしている。ご家族が対応できない時の通院等は、ホームで対応しており、ご家族の負担が少しでも軽くなればと思っている。どの職員にもご家族が話しやすい環境作りを、全職員で心掛けるようにしている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 舞シャンブル
(ユニット名)	れんげ
所在地 (県・市町村名)	横浜市戸塚区舞岡町1273番地
記入者名 (管理者)	布施 晶子
記入日	平成 20 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		カンファレンスの時などに、毎回確認し合い理解を深めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		入居希望の内覧時等に配布して、舞ジャンブルのことを良くしていただき、理解していただきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		町内会の活動に参加していただき、舞ジャンブルの理解を深めていただき、少しずつ交流が深まり、気軽に立ち寄っていただけるような環境をつくりあげたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今後も積極的な参加を継続していきたい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は、訪問診療にきていただいている医師に講師となっただき、認知症ミニ講座を開催し、近隣の方やご家族の方に参加をしていただいた。		好評だったので、今後も継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に見られることで、改善に繋がっている。また、前回の助言や注意していただいたことについて、カンファレンスで話し合い、改善または、改善の方法を検討している。		今後も継続していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から頂いた意見に基づき、すぐに対応している。		たくさんの意見を言っていただけるような良い関係性を築いていき、サービスの向上に生かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの共催での認知症ミニ講座の開催等を通じ、サービスの向上につなげている。また、戸塚区のグループホーム連絡会への出席を必ずしている。		今後も継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の案内をたびたびみるが、業務が優先になってしまっているため、参加の機会を逃してしまうこともある。また、職員自身で勉強している。		参加の機会があれば、積極的に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が常に気にかけている。		利用者の方を良く見ていることや、些細なことでも職員同士で注意し合える環境づくりを継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際や、退去時には確認、説明を行い十分な理解をしていただいている。		今後も継続していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方や、ご家族からの意見は必ず上司に報告し、その場で解決したり、カンファレンスで話し合っている。日々の何気ないコミュニケーションの中から意見、不満、苦情を汲み取りようとしている。		今後も継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に行っている。また、面会時には必ず近況の報告をしている。また、緊急時は電話連絡を蜜に取っている。必要があれば、日常記録をコピーしお渡しできる準備がある。		今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情対策の機関の案内を掲示しており、いつでも連絡していただけるようになっている。また、意見や苦情を入れるポストの設置をしている。		今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で行っている。		今後も継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員確保はできている。イベント時や急病者出たときなど柔軟な対応ができている。		今後も継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限の移動しかしていない。最近では、離職も減り、顔見知りによるケアができている。		今後も配慮を欠かさないようにしていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、講演会の案内を掲示板に張り出しており、必要時は参加している。また、他施設との交換研修を実施している。		積極的な参加をしていき、育成につなげていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の実施等を通じ、他の施設との交流をもっている。		今後は、もっと機会が増えれば良いと思っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の信頼関係を築き、ストレスをためないよう話し合いを持っている。親睦を深めるために食事会を開いたりしている。		休憩の取り方をもっと工夫し、今よりも働きやすい環境を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割分担をし、チームで仕事をこなし責任を持っていくことを意識している。		向上心を持つよう言葉では言われているが、研修を受けさせるような働きかけが少なく感じるので、積極的な動きをしたい。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会話を多く持ち不安なことや、求めていることを受け止める努力をしている。共に生活することで上手く意見が言えない方の訴えも理解するよう努力をしている。		良い信頼関係の中で生活できるよう、今後も良い環境を作っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の内覧時から、困っていることや求めることを聞くようにしている。また、入居の初期の時には、細やかな連絡をとるようにしている。		良い信頼関係の中で生活できるよう、今後も良い環境を作っていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリの必要や、介護用品のリースや必要としている支援を心掛けている。往診医師との相談も行っている。		今後も継続していきたい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居の利用をしていただいたり、何回か遊びに来ていただきながら、なじめるようなら入居に繋がるようにしている。		お試し入居等は今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方との同じ空間で生活し、同じテレビを見たり、一緒に買い物に行ったり、利用者のプライバシーを守りながら楽しく生活できるよう努力をしている。出来る部分は、積極的にお願ひし、支えていただいている感謝を伝えている。		職員も助けてもらいながらさらに良い環境を作って生きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	在宅時の生活の様子を聞いたり、行事の参加をしていただきながら、共に感動や喜びを味わえるよう努力をしている。		近隣等への散歩などにも同席していただき、スキンシップを図ってもらえるような環境づくりをしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、ゆっくりと居室で過ごせるような雰囲気を作り、良い環境を作っていたり、また、利用者の方とご家族との意見の橋渡しをしている。		良い環境を維持していけるような対応をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚の方等の面会も制限はなく、自由に過ごしていただいている。		今後も継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係には特に気遣っている。利用者同士の関係は把握しているが、全員が関わり合い、支え合っていくことは難しい部分もある。職員は、共有できる会話の工夫をしたりしている。		人間関係の把握を常に出来るよう配慮していくことを継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。		今後も、そのような関係を望むご家族には、相談を含め大切に付き合っていく

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを日々の何気ない会話等から把握するようにしている。その方のペースに合わせ、話す、聞くを心掛けている。居室に伺い、意見を聞いたりもしている。		今後も意向の把握が出来るよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から、昔の話を聞き把握していく努力をしている。個人記録の確認を何度も行いながら、利用者の方の生き方や、して欲しいことをインプットしていつている。		たくさんのコミュニケーションを今後もとっていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの表情や会話でいつもと変わったところは無いか把握している。職員間での申送りを「蜜」に行っている。		今後も継続していきたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスでの話し合い等を反映させて作成している。介護計画は職員全員の意見を反映させている。また、ご家族利用者の方との話し合いを持っている。		今後も同様な介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的な変化があったときなど、新しいプランを立てている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分生かしていると思う。又、職員全員が情報の共有をし、介護計画につなげ、ケアに生かしている。		より良い記録を目指し、書式等の変更の検討もおこなっていく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	立地条件が良いので、散歩等したり、環境の良いところを生き、柔軟な支援を心掛けている。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多部門においての協力を得ている。ボランティアさんの受け入れや、徘徊ネットワークの活用、避難訓練の実施等がある。		今後も継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリの利用や、有償ボランティアとの契約等、生活しやすい環境を作っている		今後も継続していきたい。色々な事業所の把握をし、良いサービス提供が出来る環境づくりをしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、良い関係性が保たれている。		今後も継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回の総合的な訪問診療や、歯科、泌尿器科、皮膚科の往診があり、適切な医療が受けられるようになっている。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員やご家族が話しやすい医師との関係性が成り立っている。また、専門の病院に行った方が良い等の適切な指示もいただけている。		今後も継続していきたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	舞ジャンブルの職員として、週に1回は必ず出勤しており、必要に応じて、夜間や緊急時などの対応もできている。		今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のケースワーカーや主治医、ホームにいた時の主治医と相談しながら、早く、慣れた環境に戻れるよう情報交換をこまめに行っている。		各病院のケースワーカーさんとも顔見知りになることが多く、話しやすい環境や相談ができているので、今後も継続していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	何度も話し合いの場を設け、なるべく長く住み慣れた環境で生活していけるような支援をしている。また、方針は職員、ご家族、主治医と共有しており、同じ気持ちで接することができる。		今年度は、看護師も働いているので、職員やご家族の中の安心材料にもなっているため、今後もその都度対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何度も話し合いの場を設け、なるべく長く住み慣れた環境で生活していけるような支援をしている。そのような環境になってしまった時には、クリニック側、ご家族側、ホーム側での出来ること等の確認を文書に残し、支援に取り組んでいる。		その都度の柔軟な対応を今後も継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	使い慣れているものを持参していただいたり、ご家族の面会を多くしていただくなど、混乱を少なくする努力をし、ご家族が持っている情報なども教えていただいている。		混乱を最小限にするため、ご家族や利用していた事業所との連絡をこまめに行っていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに注意することは、全職員が同じ気持ちで接している。言葉使いにも十分に気をつけている。		今後も十分配慮したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	どんなことでも、十分な説明を行い納得していただけるよう心掛けている。		今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活を優先したケアを心掛けている、随時、希望を聞く機会を持ち、生活のペースを大切にしている。		今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なかなか、望む店に連れて行けることは少ないが、なるべく希望に添えるようにしている。髪型は、利用者の方の希望通りにしている。起床時や外出時等の身だしなみには十分配慮している。		今後も継続していきたい。外の理美容店の利用も積極的に利用していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく、食事時間を過ごしていただけるよう、食べやすいような工夫や好みの食事等に配慮している。		今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活環境と変わらないような嗜好品の摂取に努めるようにしている。		欲しいものを自分の目で見て選んでもらえるよう買い物の時間をもう少し増やして生きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のタイミングを掴み、自尊心を傷つけないような支援をしている。オムツやパットなど利用者の方に合ったものを探し使用している。		肌に良いオムツやパット、利用者の方が使いやすいものを探しながらの支援を継続していきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく、利用者の方の望むとおりの入浴の時間が取れるよう努力をしている。入浴時間が楽しむ時間となれるような配慮をしている。		今後も、職員間での話し合いをし、良い入浴環境を作っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝をしたり、安楽な生活を送っていただけるような支援をしている。		今後も、利用者の方の生活習慣を確認しながら安眠、休息の時間を作れるようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることは、積極的にお願ひし生活の中での役割を持ち、張り合いや喜びのある生活の支援をしている。		出来ることを探していきながら、楽しい生活が送れるような支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際のお金の支払は、出来る方にはお願いしている。また、ご家族の協力を得て自室にお金を所持している方もいる。		今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境が良いので、散歩や近所への買い物など出掛ける機会を作っている。玄関先には花を植えたり、プランターでの野菜や花の栽培をしており、ホームの中だけで生活だけではないようにしている。		行きたいところへ行けるようなサービスができていけると良いと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームだけでは、対応しきれない事もあるので、ご家族の協力を得て、自宅への一時帰宅ができた方もいる。		今後も、ご家族の協力も得て実施していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自由に行ってもらっている。電話は、ご家族が携帯電話を準備してくれている方もいる。		電話、手紙等の通信が断たれることがないよう、配慮していきたい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限は一切していません、自由に訪問していただき、一緒に外出したり、居室やリビングの開放をして居心地良く過ごせるよう配慮している。		今後も継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、身体拘束を行っていません、生命に危険がある時のみ十分な説明や、同意を得て行うようなマニュアルがある。		今後も継続した考えで接していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は1日中、開放しており自由に外の空気を吸える環境にある。		今後も継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、利用者の方がどこにいるのか、何をしているのか把握しており、安全を一番に考えている。		今後も継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の方に応じた対応をとっている。危険があるはさみや包丁、針なども職員と一緒に使うなどしている。		今後も継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には十分注意している。また、ヒヤリハットを活用し事故防止につなげている。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており、職員が分かるようになっている。		今後も継続していきたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を今年度は、ご家族や近隣の方にも参加していただけるような準備をしている。		運営推進会議で、地域の方、ご家族の方には話をしているので、実施ができるような準備をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	色々なリスクを考え、抑圧感の無い生活が送れるよう考えている。		研修との参加で、リスクマネジメントについて理解を深めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の様子を記録に残し、少しの体調の変化にも気付き、速やかな対応をしている。看護師との連絡や主治医との連絡はすぐ取れる体制になっている。		今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方の使用している薬の案内は、全職員が目を通し、理解に努めている。担当の薬剤師にもすぐに話しが聞ける状況にある。		今後も継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らない、自然排便があるよう、ヤクルトの飲用や体操、散歩等の配慮をしている。		今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず職員が口腔ケアには立会い、必要に応じて支援している。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方に合った、食事の量や水分の量、職員間の連絡もしっかりと行い、バランスよくできている。		今後も継続していきたい。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	十分に配慮している。		今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には、十分な配慮をしている。		今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の入り口には野菜を植えたり、玄関先には花を栽培したり、殺風景にならないような工夫をしている。		今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のある作りになっている。不快な光が入るような時には、カーテンやブラインドを下げるなどの配慮をしている。		今後も継続していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースを作ったり、仲の良い方と一緒に座れるソファの準備があったりと、工夫をしている。		良い環境づくりを今後も継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方や、ご家族との相談で、使いやすく、生活しやすいような居室環境にしている。		良い環境づくりを今後も継続していきたい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気扇の利用や、窓を開けるなど換気に注意しており、また気温の差が無いような配慮は常にしている。</p>		<p>良い環境づくりを今後も継続していきたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>要所要所に手すりをつけたり、バリアフリーな建物となっており、残存機能を生かした生活が出来るよう配慮している。</p>		<p>良い環境になると思われることは積極的に行ってきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>失敗しても大丈夫と安心感を持ってもらうような環境づくりと、混乱が少なくなるような支援をしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでの食事やお茶飲み、植物の栽培や、洗濯物を干すなどの在宅と同じような環境を作っている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族との連絡を密接にとり、相互の状況の報告をしている。ご家族が対応できない時の通院等は、ホームで対応しており、ご家族の負担が少しでも軽くなればと思っている。どの職員にもご家族が話しやすい環境作りを、全職員で心掛けるようにしている。